

財政白書  
 | 大丈夫？あなたのまちの  
 台所事情 |



沖縄赤十字病院 脳神経外科  
 饒波 正博

平成19年の夕張市の破綻とその後の状況は、自治体の財政運営がいかに現在の、あるいは将来の私たちの生活と直結しているかを教えてくれました。自治体もまた私企業と同じように破産するものだということが目の前で証明されたわけです。

この事態を受けてクローズアップされてきたのが、自治体が経営する公立病院の民営化も含む公共部門の経営の見直し問題でした。しかしここで思いだしてほしいことは、介護領域で発生した民間の福祉介護会社コムスの不正請求事件であります。処分後に明かされたその経営の内実、職員に対するノルマ導入や一部で行われていた劣悪なサービス提供を見てもわかるように、利潤追求を目的とする民営化はオールマイティーの解決法ではありません。ある部門、これは医療も含む公共の部門と言いなおしてもいいわけですが、この部門においては市場経済を導入してもうまく機能しないどころか、そうすることで部門そのものが破壊されてしまう危険性があるのだということがよく分かりました。そして破壊された場合に最も困るのは、ほ

かならぬ私たちであるわけです。したがって私たちは、この状況下で黙っているわけにはいきません。しかし私は、語りだす前に公共部門にまつわる情報を読み解く能力（リテラシー）をまず身につけなければいけないと思うのです。

私が3年前から所属している沖縄自治研究会は、琉球大学教育学部の島袋純教授を中心とした自由な集まりです。今回、約10ヶ月かけて沖縄県を含め県内9自治体の財政分析を行い、この4月に成果を「財政白書—大丈夫？あなたのまちの台所事情—」として刊行しました。この勉強会を終えて驚いたことがあります。たった10ヶ月の勉強で身につけた浅はかな知識ですが、その目で先の夕張市の財政資料に目を通しますと、私でも明らかにおかしいと思われるところが指摘できます。つまり、もし少し財政を学んだ市民のチェックがあったのなら、夕張の悲劇はあれほどまでひどくはならなかったのでは、こんなことを考えています。公共部門の政策の失敗は多大な被害を引き起こすだろうとは、誰でも予想はつきます。これを未然に防ぐためには、前述したリテラシーを身につけた者が発する幾重ものチェックが必要なのではないでしょうか。そして私は、これを行うことも専門人としての医師の務めの1つだと考えております。

本文で紹介した、「財政白書—大丈夫？あなたのまちの台所事情—」で私は那覇市、用語集を担当しました。皆様の御批評を請います。noha-ma@gb4.so-net.ne.jp まで。

